

ワークインプログレス

ミュージカル

アトリエ公演

Vol.12

主催 洗足学園音楽大学・大学院

場所 洗足学園音楽大学

キッズスクエア1階

MUSIC POOL CINQ

マリー

ガブリエルの

自画像



# PERFORMANCE SCHEDULE 2023

---

2月24日（金） 18:00開演（A）

2月25日（土） 13:00開演（B）

2月26日（日） 13:00開演（A）

3月3日（金） 18:00開演（B）

3月4日（土） 13:00開演（A）

3月5日（日） 13:00開演（B）

開演30分前に開場いたします。

# ご挨拶

## 「アトリエ公演に寄せて」

2022年度ミュージカルコースは、優秀な1年生が多数入学し、それに在校生が刺激を受けるという良い意味での学内競争力が更に高まった年であった。ただ、約3年に及ぶコロナ禍の中で、感染学生が出るたびにその対応に追われ、断腸の思いで上演中止を決断することもしばしばあり、学生達も私自身もかなりしんどい日々を過ごしてきた。

そんな状況の中、今年になり4年生の卒業公演や1・2・3年の授業成果発表公演を4週連続で無事上演することが出来たこと、本心から良かったと思っている。

そして今回の選抜学生によるミュージカルコースアトリエ公演は、久々にオリジナル作品を上演する。

そのきっかけは、私の敬愛する演出家、家田淳先生から、彼女が書いた脚本に曲を作って欲しいと告げられたからである。去年の3月くらいだったと思う。

私は二つ返事で快諾したものの、彼女の創作のペースは想定外に早く、あれよあれよという間に出来上がっていった。

私自身は、楽しみは後にとっておくという能天気な性格ゆえに、作曲に取り掛かるのが遅く、彼女は相当我慢の日々だったことであろう。この場を借りてお詫びする次第である。

さて、この作品のキーワードは、実在した人物を基に、正義・フランス革命・女性進出というものである。

日本では紫式部や清少納言のように平安時代から活躍する女性作家・歌人が存在したが、白人社会では、社会構造上、女性が活躍する場が皆無だったのであろう。

私自身、高校・大学時代の作曲の師が戦後フランスに留学した経験のある人ばかりだったので、その影響を直接受け、その作曲技法を勉強した。この学生時代に学んだことは今でも自分の礎になっている。

今回は、その経験を生かし、脚本家の意図を汲みながら曲を書いた。その行程は苦しかったけれど楽しかったのも事実である。

ただ作曲家は、ピアノに向かい机の上で音符を書いても全く意味がない。その曲を十分に理解し、表現してくれる演者がいて初めて曲に息が吹き込まれ、歌が生まれるのである。

学生達には、曲が上がるのが相当遅く苦勞をかけたが、短期間でどこまで歌い、演じてくれるか、今から楽しみで仕方ない。

篠原 真（ミュージカルコース芸術監督）

# 演出ノート

上野の国立西洋美術館の常設展示エリアにひっそりとかかる、マリー＝ガブリエル・カペの自画像。

十数年前に初めてこの絵と出会った時、雷に打たれたような衝撃を覚え、この絵には何かがあると直感しました。調べてみると、マリーと彼女を取り巻く人々に壮絶なドラマがあったことを知り、以来この物語を舞台作品にしてみたいとずっと考えていました。この作品に描かれていることは9割方、史実です。

18世紀フランスの話ではありますが、この物語は現代日本人の人々に向けて書きました。性差別の視点で見た場合、革命前後のフランスと現代の日本は多くの共通点があります。なにしろジェンダーギャップ指数が世界116位、政治家などのあけすけな女性蔑視発言が絶えない日本です。人物たちの境遇を知ると、なんだか遠い世界とは思えない気がするのではないのでしょうか。

「レ・ミゼラブル」「エリザベート」など、歴史に取材したミュージカル作品は日本でも特別な人気がありますが、ここ洗足ミュージカルコースで歴史物を上演するのは初めてです。この題材に学生たちがどう反応するか全く分かりませんでしたでしたが、キャストもスタッフも新しいチャレンジに飛びつき、果敢に取り組んできました。新しい世代が性別に関係なく才能を発揮しながら社会を変えていってくれることが私の願いです。

コース芸術監督の篠原真先生の壮大な楽曲、打越麗子先生のダイナミックなダンスと共に、この世界への旅を楽しんでいただけたら幸いです。

脚本・演出 家田淳（ミュージカルコース准教授）

# STORY

リヨンで召使の娘として生まれたマリーは、画家になろうと意気込んでパリにやってきた。しかし当時のフランスでは美術学校に入学できるのは男性だけ。女性は絵の勉強をするところがない。女性の画家で、自分のアトリエで女性の若手を育てているアデライードのもとに、マリーは無事に弟子入りを果たす。

そのアデライードのライバルは、マリー＝アントワネットお抱えの肖像画家ルイーズ。華やかで社交上手なルイーズは、王室と貴族のクライアントを多数抱えてパリを飛び回る。対して、地味で愚直なアデライード。二人とも作品を賞賛される一方、女がプロとして絵を描いているというだけで酷い誹謗中傷にもさらされる。

アデライードのアトリエでマリーは順調に腕前を上げていく。幼馴染のファビアンと再会して恋も芽生える。そんな中、フランス革命が勃発し、画家たちの運命は暗転する-----。



マリー＝ガブリエルの自画像

# 人物紹介



マリー＝ガブリエル・カペ（実在 1761～1818）

リヨン出身。召使いの娘として生まれる。画家を目指してパリで女性画家アデライド・ラビーユ＝ギアールの弟子となる。この自画像は上野の西洋美術館所蔵。

アデライド・ラビーユ＝ギアール（実在 1749～1803）

マリーの師匠。王立アカデミーに入会が認められた数少ない女性画家の一人。商人の娘で、絵とは無縁の世界から自らの道を開いた。女性の後進の育成に熱心。



ルイーズ・ヴィジェ＝ルブラン（実在 1755～1803）

アデライドのライバル。マリー・アントワネットお抱えの肖像画家。画家を父として生まれる。美貌の持ち主で、パリの社交界で華々しく活躍する。

ファビアン・デュパルク

リヨンでマリーの両親が仕えていたブルジョアジーの息子。パリで法律の勉強をしつつ、啓蒙思想に共感する。

レチフ・ド＝ラ＝ブルトンヌ（実在 1734～1806）

作家。代表作に、革命下の民衆の姿を克明に描いた「パリの夜」がある。





### ジャック＝ルイ・ダヴィッド（実在 1748～1825）

新古典派を築いた画家。アカデミー会員の一人。女性画家の進出を阻もうとする。のちに有名なナポレオンの肖像数枚を手がけた。

### マルグリット、ポレット、モニーク

アデライードの若い女性の弟子たち。マリーの仲間。



### マリー・アントワネット（実在 1755～1793）

フランス王妃。ルイーズと同年。

### フランソワ＝アンドレ・ヴァンサン（実在 1746～1816）

アデライードの友人で、二人目の夫。画家。父フランソワ＝エリー・ヴァンサンはアデライードの師匠だった。アデライードの死の3年前に正式に結婚。



### ナポレオン・ボナパルト（実在 1769～1821）

フランス革命でのし上がった軍人。フランス第一帝政の皇帝になる。

### ダンジヴィエ伯爵（実在 1730～1809）

王室建造物局総監。女性の社会進出に反対。

### パアン＝ド＝ラ＝ブランシュリー（実在 1752～1811）

サロンの興行主。

# CAST

A (2月24日・2月26日・3月4日)

B (2月25日・3月3日・3月5日)

## A

五十嵐茜美 (学3)  
前原菜々子 (学4)  
長島楓夏 (学2)  
石川潤 (学3)  
佐藤大世 (学3)  
下枝宏輔 (学3)  
橋本紗奈 (学2)  
犬塚陽菜 (学1)  
池上愛未 (学2)  
入江十和歌 (学2)  
長友リサ妃美子 (学2)  
澤田圭佑 (学3)

打越秋日

押川浩士 (講師)

tekkan (教授)

## B

長友リサ妃美子 (学2)  
久村杏 (学3)  
植山愛結 (学3)  
澤田圭佑 (学3)  
丸山穂葉 (学2)  
山本隼也 (卒)  
田中杏 (学1)  
郷間香乃 (学1)  
佐々木徳子 (学2)  
灰崎琳子 (学2)  
五十嵐茜美 (学3)  
石川潤 (学3)

マリー=ガブリエル・カペ  
アデライード・ラビユー=ギアール  
ルイズ・ヴィジェ=ルブラン  
ファビアン・デュパルク  
レチフ・ド=ラ=ブルトンヌ  
ジャック=ルイ・ダヴィッド  
マルグリット  
ポレット  
モニーク  
マリー・アントワネット  
真理  
敬  
ジュリー/ヤングルイズ  
フランソワ=アンドレ・ヴァンサン  
ナポレオン・ボナパルト

### 〈ブルジョワチーム〉

ミュゼット  
クロエ  
アンナ  
エメ  
マノン  
アラン  
シェリュバン  
ダンジヴィエ  
フィガロ  
クロード  
ピエール  
パアン

青山京子 (学2)  
北嶋玲紗 (学3)  
寺田このは (学2)  
澤田麻江 (学4)  
灰崎琳子 (学2)  
尾崎愛 (学2)  
野呂澄鈴 (学2)

遠藤直孝 (学4)

恩田真帆 (学2)  
澤田圭佑 (学3)

横田沙羽子 (学3)  
中山愛梨 (学2)  
敦賀心 (学1)  
竹内彩夏 (学2)  
入江十和歌 (学2)  
上妻萌恵 (学2)  
櫻木いずみ (学2)

丹治聡美 (学1)  
石川潤 (学3)

栗山明久 (学4)  
徳田海来 (学4)

### 〈革命チーム〉

セシル  
シルヴィ  
アメリ  
ヴェロニク  
イレヌ  
リディ  
ルネ  
テレーズ  
ヴァレリー

高雄結女 (学3)  
秋野祐香 (学3)  
齊藤千紘 (学2)  
岡田梨那 (学2)  
倉科風香 (学2)  
日笠静乃 (学1)  
中川姫奈 (学2)  
平林理香子 (学2)  
小杉愛華 (学1)  
坂井田祥子 (学2)  
内川真羽 (学2)  
鈴木愛海 (学2)

# MUSICAL ENSEMBLE

指揮者	篠原真（ミュージカルコース芸術監督）
ピアノ	星野苗緒（講師）
電子オルガン	阿邊葉月（卒）
サクソフォーン	馬場レイジ（卒）
ベース	永瀬脩希（卒）
ドラムス	和田拓斗（卒）
パーカッション	清水優（卒）

## CREATIVE TEAM

脚本・演出	家田淳（准教授）
作曲	篠原真（ミュージカルコース芸術監督）
振付・ムーヴメント指導	打越麗子（講師）
美術	大河原敦
照明	稲葉直人（講師／ASG） 関口大和（ASG）
映像	荒井雄貴（アライ音楽企画） 藤原唯（アライ音楽企画） 浅見陽子（アライ音楽企画）
衣裳コーディネーター	仲村祐妃子
音響	鈴木紀浩（TACT）
舞台監督	穂苅竹洋（講師） 菅野将
稽古ピアノ	小林千夏 高野直子 星野苗緒
	松本麻衣 山村愛
音楽助手	後藤光葵

## STUDENT STAFF

演出助手チーフ	松本響（学4）
演出助手	藤田芽衣（学1） 小山葵生（学1）
振付助手	中山小雪（学1）
大道具・小道具	緑川然華（学1） 岡本朋花（学1）
音響	篠原優美ソフィア（学1）
美術	若江佳乃子（学3）
衣裳	高久保来見（学3） 寺田このは（学2）
	野呂澄鈴（学2）
舞台監督助手	隈部由季（学4） 花岡美紀（学3）
	橋本瞭平（学2） 森島瑠菜（学1）
照明助手	菅沼亮太（学3） 田澤佳澄（学1）
映像	大竹海月（学3）
映像・プログラムデザイン	中平結子（学1）

# CAST COMMENT

---

洗足ミュージカルコース初の歴史物、大きな題材であるフランス革命を扱った完全オリジナル作品。卒業を目前にして、最後にこの大きな挑戦に関わる事ができて心から光栄に思います。

12月末から始まった稽古期間は本当に手探りの日々で、全てを一から立ち上げていく難しさはカンパニー全員が痛いほど感じていたと思います。それぞれが深めれば深めるほど色々な解釈や選択があって、先生方と話し合いキャスト同士で話し合い、やってみて分からなくなるとはまた話し合いとにかく色々な角度から食らいついて…。そうして少しずつ形になったこの“新作「マリー＝ガブリエルの自画像」”。その過程で生まれたチームごとの解釈や見え方の違いも、今回のワークインプロGRESS公演の観どころなんじゃないかなと思います！

歴史を学び、そこにに実在した人物達に思いを馳せ、彼らの人生を作品として舞台にのせることの重み。それを心にしかと留め、この作品の第1歩に少しでも貢献できるよう、皆で立ち上げたこの作品を全力でお届けできるよう、精一杯努めます！

## 前原菜々子（学4）

ご来場いただいた皆様、YOUTUBE配信をご覧の皆様、  
本日は誠にありがとうございます。

「マリー＝ガブリエルの自画像」。私はこのタイトルを聞いた時、どんな作品になるのか全く予想が付きませんでした。

新作ミュージカルの創作は、とてもクリエイティブで難しく挑戦的な試みでしたが、皆がそれぞれ一生懸命に稽古を重ねて参りました。

家田先生の詩的でエレガントな脚本と、緻密で繊細な篠原先生の楽曲と、打越先生の華やかでダイナミックな振付は、パリの様々な情景をこの舞台に描きあげてくださいます。

本日は200年以上前の絵画に込められた画家たちの人生や、思い、希望を、現代に生きる我々がミュージカルで皆様にお届け致します。ぜひお楽しみください。

## 佐藤大世（学3）

# CAST COMMENT

本日はお忙しい中ご来場いただき、誠にありがとうございます。  
今回ダンスチームは、モダンダンスやアクロバットなど、これまで大学で踊る機会のなかったテイストに挑戦しました。  
振付をどう踊るか試行錯誤するのも、各々が創作しどう表現するか考えていくのも、全ての過程が刺激的で本当に楽しかったです。  
壮大なストーリーをダンスでより強く・印象的に表現できたらと思います。  
そしてフランス革命を生き抜く民衆それぞれがどんな人生を歩むのか、楽しんでいただけたら幸いです。

## 高雄結女（学3）

「マリー＝ガブリエルの自画像」初演上演おめでとうございます。  
この作品への出演が決まった時、飛び跳ねました。本当です。家田先生の、こんなおもしろそうな作品、しかも初演に携わることが出来るなんて！嬉しさのあまりにジャンプ！本当です。  
私はアンサンブルキャスト。様々な場面に様々な役で舞台上に顔を出します。ある時はギャンブルの街へ手招きするイカサマ師、ある時は伯爵の妻と浮気しちゃったケルビーノ、ある時はパンと生きる権利を求める民衆、、、その他貴族から現代人に至るまで幅広く役を演じさせていただき、私たちはいくつもの人生を生きました。名も無き人生までぎゅっと詰まっているのは見所でもあります！この「マリー＝ガブリエルの自画像」という作品のなかにいきいきと生きるアンサンブルの姿もどうぞお楽しみください。

BIENVENUE A PARIS！ようこそパリへ！  
私たちが物語の世界へ、ご案内いたします。

## 野呂澄鈴（学2）







## ⚠️ 新型コロナウイルス感染症の 感染拡大を防ぐためのお願い

- マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- 大声や対面での会話はお控えください。
- 演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- 休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- 客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- 出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- 万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

ご協力よろしくお願いいたします。